

平成30年度大阪府立西野田工科高等学校 定時制の課程 第1回学校運営協議会

□日 時：平成30年6月20日（水）18:00～20:00

□出席者：協議会委員6名、准校長、教頭、主査、生徒部長、教務部長、進路指導主事、記録担当者

□第一部：准校長あいさつ、学校運営協議会について、委員・事務局紹介

□第二部：協議

◆会長・副会長の選出

◆本校の状況と課題（教務部・生徒部より説明）

【教務部】昨年度の取組、生徒数の推移、教務概要、出席率の推移など

【生徒部】生徒指導、特別活動、部活動、教育相談、進路状況など

◆学校経営計画について（准校長）

- ・生徒の「心の居場所」になれる学校づくり、教育相談機能の充実を継続して行う
- ・基礎学力向上、特色ある行事づくり、安心安全な学校づくりに取り組む
- ・西野田工科ウィステリアプランについて

◇委員からの意見

- ・これまでの定時制は勤労青少年が多かったが、現在は不登校経験のある生徒、集団生活になじめない生徒が多くなっていると感じる。
- ・教員が親しみやすい存在であるので学校へ来る生徒が多くなっている。しかし、卒業してから社会に出ることを考えると言葉遣いや教員との距離感がそのままでは心配である。
- ・進級率、出席率が上がっている中、さらに退学する生徒を出さないことも課題である。
- ・生徒の就職に対する意識が低いように感じる。社会保障やその仕組みなどを生徒に理解させ、さらに生徒のニーズとマッチングできる進路指導、キャリア教育が今後の課題である。
- ・現在の生徒はとてども繊細な部分があり、自己肯定感を一番大事にしたいが自分では発見しづらい。自己肯定感をもち、なりたい自分をイメージしてもらいたい。
- ・ほんの小さなことに過敏に反応してしまったり、それがきっかけで学校に来れなくなったりと、感受性豊かな生徒が増えている中、生徒が学校に来られる環境にさせていただいていることは非常にありがたい。

◆まとめ

- 生徒自身が自己肯定感をもちることが一番大事である。そのためにも生徒の「つまづき」をしっかりと見て、それぞれの段階で「しんどい」部分を解決し、次のステップにつなげていただきたい。
- 社会につなげていくためには、言葉遣いをはじめとする社会性やコミュニケーション力が大切である。生徒が身につけることができるようメリハリのある指導をしていただきたい。
- 先生方が親身になって指導していることは生徒にとってプラスである。これまでの指導を活かし、生徒が元気な姿で卒業していけるよう継続して取り組んでいただきたい。